

## 平成 16 年度事業概況

平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで

### 1. 定時会員総会に関する事項

平成 16 年 5 月 31 日、アクチュアリー会大会議室にて会員総会を開催し、

- 第 1 号 平成 15 年度事業概況に関する件
- 第 2 号 平成 16 年度事業計画（案）承認の件
- 第 3 号 平成 15 年度決算承認の件
- 第 4 号 平成 16 年度予算（案）承認の件
- 第 5 号 会費分担に関する件

を諮り、原案どおり承認された。

### 2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、賛助会員については入会 4 社、退会 2 社、個人会員については入会 219 名、退会 132 名（うち死亡 4 名）があり、平成 17 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

#### 入会賛助会員

カーディフ・アシュアランス・ヴィ  
スイス再保険会社 日本支店  
トランスアメリカ再保険会社  
ミュニククリー ジャパン サービス株式会社  
以上 4 法人

#### 退会賛助会員

日動火災海上保険株式会社  
あおば生命保険株式会社  
以上 2 法人

名 誉 会 員	8 名
正 会 員	1,101
準 会 員	768
研 究 会 員	1,662
小 計	3,539
賛 助 会 員	109
合 計	3,648

### 3. 事業概況

#### 〔試験関係〕

#### (1) 平成 16 年度資格試験の実施

平成 16 年 12 月 24 日、27 日、28 日の 3 日間、東京（早稲田大学理工学部）、大阪（天満研修センター）、中国の北京（対外経済貿易大学）および成都（西南财经大学）の 4 都市で実施し、平成 17 年 2 月 17 日に合格者を決定した。受験科目総数は 3,415、うち合格科目数は 428、全科目合格者は 64 名であった。なお、中国における申込科目総数は 70、うち受験科目総数は 59、合格科目数は 2 であった。

(2) 試験教育制度の改正について

平成 14 年度の理事会決議を受けて、平成 17 年度の資格試験より試験範囲に「モデリング」が加わることから、「モデリング」のテキストを作成した。なお、会員への「モデリング」に対する周知を図る観点から、アクチュアリージャーナルを通じて「モデリング」のテキストに関する連載を行った。

〔教育・研修・研究発表関係〕

(3) 平成 16 年度アクチュアリー講座を実施

会員の教育制度として、東京においてアクチュアリー講座を実施した。アクチュアリー講座は平成 16 年 5 月 6 日から 11 月 25 日の期間で実施し、基礎講座 10 科目、特論講座 7 科目が開講され、受講者数は基礎講座 116 名、特論講座 30 名であった。

(4) 平成 16 年度アクチュアリー追加演習講座を実施

会員の教育制度として、東京においてアクチュアリー追加演習講座を開設した。アクチュアリー追加演習講座は、入社 2～3 年目以降の受験者向けで、演習を中心とした実践的なアクチュアリー知識を習得することを目的とした講座である。平成 16 年 9 月 1 日から 12 月 8 日の期間で生保数理演習と損保数理演習の 2 科目を実施し、受講者数は生保数理演習 89 名、損保数理演習 64 名であった。

(5) 平成 16 年度年次大会・IT 研究大会の開催

平成 16 年 10 月 27 日、28 日の両日、経団連会館、大手町サンケイプラザ、JA ホールにおいて開催した。

年次大会初日における特別講演は、午前の部において「透明性ある企業財務情報を求めて」のテーマで日本公認会計士協会前会長の中央青山監査法人代表社員 奥山 章雄氏により、午後の部において「統計学とアクチュアリー」のテーマで東京大学大学院経済研究科助教授 大森 裕浩氏と、「国際会計基準の動向と企業年金制度の将来像」のテーマで日本大学経済学部教授 今福 愛志氏によりそれぞれ行われた。

また、IT 研究大会の特別講演は「IT、いま変革の時－産業、利活用、雇用のすべてが変わる－」のテーマで日経 BP 社コンピュータ・ネットワーク局主任編集委員 北川 賢一氏によって行われた。

なお、今年度より大会委員会の下部組織としてプログラム部会を新設し、年次大会のプログラム内容のさらなる充実を図っている。

(6) アクチュアリー海外研修の実施

会員の教育制度として、第 1 回アクチュアリー海外研修を実施した。生保・年金を研修テーマとする第 1 組、損保を研修テーマとする第 2 組の 2 組に分かれて実施し、第 1 組は米国アクチュアリー会 (Society of Actuaries; SOA) の年次大会参加を中心にニューヨークにて平成 16 年 10 月 23 日～11 月 3 日の期間で研修を行い、第 2 組は米国損保アクチュアリー会 (Casualty Actuarial Society; CAS) の年次大会参加を中心にモントルオール等にて平成 16 年 11 月 8 日～19 日の期間で研修を行った。参加者数は、第 1 組 32 名、第 2 組 8 名であった。

(7) SOA ALM セミナーの実施

平成 16 年 7 月 27 日～7 月 30 日、東京において SOA が日本アクチュアリー会と共催で ALM セミナーを実施した。当セミナーにおいて、当会からは吉村 雅明君（住友生命）、松山 直樹君（明治安田生命）がプレゼンテーションを行なった。

(8) Joint Regional Seminar 開催への協力

平成 16 年 7 月 9 日、東京において SOA、英国アクチュアリー会 (Faculty and Institute of Actuaries)、および豪州アクチュアリー会 (Institute of Actuaries of Australia) の共同主催で行われた、Joint Regional Seminar の開催に協力した。なお、セミナーのテーマは「Risk Management」であった。

(9) 例会の開催

第 1 回例会 平成 16 年 6 月 15 日（於：こまばエミナース）

「米国における変額年金保険責任準備金の新規制案」

Thomas A. Campbell 氏（米ハートフォード生命）

第 2 回例会 平成 16 年 7 月 14 日（於：損保会館）

「生命保険会社の保険計理人の実務基準について－概要と H15 年度改定内容－」

猪ノ口 勝徳 君（日本生命）

第 3 回例会 平成 16 年 8 月 3 日（於：損保会館）

「数理ファイナンスを応用した更新型定期保険の価格設定」 山本 信一 君（立命館大学）

第 4 回例会 平成 16 年 11 月 15 日（於：こまばエミナース）

「平成 16 年年金制度改正をめぐって」

坂本 純一 君（野村総合研究所）

第 5 回例会 平成 17 年 2 月 9 日（於：こまばエミナース）

「英国の生命保険における最近のアクチュアリー役割の変化」

Jeffrey Burton 氏（アーンスト アンド ヤング グローバル フィナンシャル サービス）

第 6 回例会 平成 17 年 3 月 10 日（於：こまばエミナース）

「生体情報処理のモデル化と新しい予測法開発へのヒント」 中野 馨 氏（東京工科大学）

(10) 研修例会の開催

第 1 回研修例会 平成 16 年 6 月 30 日（於：こまばエミナース）

「保険者ソルベンシー評価のための国際的枠組み」

穴田 祐史 君（日本生命）、河野 年洋 君（ニッセイ同和損害）、

野田 智意 君（三井住友海上）、森本 祐司 君（インテグレイテッド・ファイナンス証券）

第 2 回研修例会 平成 17 年 1 月 20 日（於：こまばエミナース）

「EU ソルベンシー II とソルベンシー規制の国際的枠組み」 河野 年洋 君（ニッセイ同和損害）

第 3 回研修例会 平成 17 年 2 月 22 日（於：こまばエミナース）

「Developments in Actuarial Science」

Paul Embrechts 氏（チューリッヒ工科大学）

#### (11) セミナーの開催

正会員および準会員を対象に下記の4テーマについて相互研鑽を目的に7月よりムーンライトセミナーを実施した。

- |                                      |                     |
|--------------------------------------|---------------------|
| ① 統計データの数理モデルへの適用                    | 損保数理ロスモデル研究会委員      |
| ② コーポレート・ファイナンスの基礎                   | 柳 慎一 氏 (前大和証券 SMBC) |
| ③ 生命保険会社のリスク計量                       | 服部 真 君 (アイエスジー生命)   |
| ④ US-GAAP Valuation (FAS97, SOP03-1) |                     |
- 坂井 秀樹 君 (ソニー生命)、Michael J. Lockerman 氏 (中央青山監査法人)

#### (12) 正会員研修の実施

平成 17 年 3 月 16 日、損保会館において、正会員および準会員を対象に下記の研修内容で実施した。今年度の受講修了者は正会員 44 名、準会員 35 名であった。

- |                  |                                       |
|------------------|---------------------------------------|
| アクチュアリーと行動規範について | 小林 修 君 (明治安田生命)                       |
| 生保のプロフェッショナルリズム  | 猪ノ口 勝徳 君 (日本生命)                       |
| 損保のプロフェッショナルリズム  | 久保田 均 君 (セコム損害)                       |
| 年金のプロフェッショナルリズム  | 位田 周平 君 (三菱信託)、<br>大山 義広 君 (三井アセット信託) |

#### (13) 研究会活動

現在以下の 12 の研究会で活発な研究を行っている。各研究会の活動状況等について、当会ホームページに掲載するとともに、研究成果としてまとめたものについては、会報別冊等を通じて公表した。

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| 外国文献研究会     | 生保計理に関する基本問題研究会 |
| ASTIN 関連研究会 | 巨大リスク研究会        |
| 損保計理研究会     | 損保数理ロスモデル研究会    |
| 年金基礎研究会     | 年金理論研究会         |
| 医療保険研究会     | AFIR 関連研究会      |
| デリバティブ研究会   | ALM 研究会         |

#### 〔委員会・部会活動〕

##### (14) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準および保険監督の国際基準についてはそれぞれ IASB (国際会計基準審議会) ならびに IAIS (保険監督者国際機構) において精力的な検討がなされ、それぞれの機関会員である IAA (国際アクチュアリー会) では、アクチュアリー専門職団体として保険契約の国際会計基準 (IFRS4) に対応する国際アクチュアリー実務基準の作成を行う等の活動を行っている。IAA 正会員メンバーである当会においても、生保委員会、損保委員会の関連の部会にて検討を進めるとともに、IAA の委員会活動に積極的に参画し、意見表明等を行なっている。

(15) 標準死亡率諮問委員会の開催

平成 17 年 1 月 19 日に開催された第 10 回標準死亡率諮問委員会において、「生保標準生命表 1996（死亡保険用）」については、平成 17 年度は継続適用すること、および「生保標準生命表 1996（年金開始後用）」については、環境変化にも留意しつつ改定を視野に入れた検討を継続的に進めていくことを前提に平成 17 年度は継続適用することが了承された。

(16) 情報提供機能の充実

- イ. 各委員会・部会の活動状況等について当会のホームページに情報を掲載した。
- ロ. 諸外国のアクチュアリー会の刊行物に掲載されている記事の一部について、その概要の紹介を当会のホームページにおいて行った。
- ハ. 会の活動のプラットフォームとして会員各位にホームページを利用してもらうため、会員専用ページの刷新を行ない、会員間の交流や会員各位からの積極的な情報発信の促進に資する改訂を行なった。

〔国際関係〕

(17) 第 33 回東アジア・アクチュアリー講座（ASEA）の実施

平成 16 年 7 月 21 日から 8 月 6 日までの 17 日間にわたり、東アジアの 7 地域から 25 名の参加を得て、保険数理に関する特定のテーマについての講座を実施した。

(18) IAA 活動

本年度はストックホルム会議（平成 16 年 6 月 2 日～5 日）、ワシントン D.C.会議（平成 16 年 11 月 10 日～13 日）に委員を派遣した。

平成 16 年度末現在の当会の IAA 委員会等の委員は以下のとおりである。

Accreditation Committee	日笠 克巳 君
Education Committee	日笠 克巳 君
Insurance Regulation Committee	河野 年洋 君
Solvency Subcommittee	河野 年洋 君
Insurance Accounting Committee	阿比野 裕 君
〃	田口 茂 君
Reinsurance Subcommittee	藤井 康秀 君
Subcommittee on Actuarial Standards	阿比野 裕 君
〃	田口 茂 君
Advice and Assistance Committee	村田 富生 君
China Subcommittee	村田 富生 君
Professionalism Committee	吉村 雅明 君
Task Force on Strategic Planning	吉村 雅明 君
ASTIN セクション	藤井 康秀 君
IACA セクション	吉田 英幸 君

## (19) 意見表明

- イ. 平成 16 年 5 月、国際会計基準委員会財団 (IASCF) 「定款の見直しのための論点の識別-コメントの募集」に対する IAA コメントに対し、賛成として投票を行った。
- ロ. 平成 16 年 6 月、IAIS 「資本の適切な形態に関する監督基準 (草案)」に対する IAA コメントに対し、賛成として投票を行った。
- ハ. 平成 16 年 8 月、IAIS 「IAIS の定款の提案に関する協議文書」に対する IAA コメントに対し、賛成として投票を行った。
- ニ. 平成 16 年 9 月、IASB 「IASB 審議過程の充実」に対する IAA コメントに対し、賛成として投票を行った。
- ホ. 平成 16 年 9 月、「キャッシュバランプラン等に関する国際財務報告解釈指針委員会 (IFRIC) の解釈指針案」に対して、日本年金数理人会と共同で意見を IFRIC 宛提出した。
- ヘ. 平成 17 年 1 月、「保険契約の国際会計基準[IFRS4]に対応した IAA 実務基準制定の第 1 回予備公開草案」に対し、意見を IAA 宛提出した。
- ト. 平成 17 年 1 月、「世界銀行を IAA オブザーバーメンバーに認めること」について IAA に対し、賛成として投票を行った。

## (20) IAA 迅速処理適用案件

以下の案件について、IAA の迅速処理手続きが適用されたが、当会から反対等の意見は表明しなかった。

- イ. 平成 16 年 7 月、IASB 「IAS39:金融商品の認識と測定」の一部修正、「公正価値オプション」に対する IAA 意見
- ロ. 平成 16 年 7 月、IASB 「IAS19:従業員給付の一部修正、保険数理差損益、グループ制度及び開示」に対する IAA 意見
- ハ. 平成 16 年 7 月、IASB 「IFRS3:企業結合」の一部修正、「契約のみまたは相互会社による企業結合」に対する IAA 意見
- ニ. 平成 16 年 9 月、「アクチュアリー専門職に関するモリスレビュー：諮問書」に対する IAA 意見
- ホ. 平成 16 年 9 月、FASB 「FAS 公開草案：公正価値評価」に対する IAA 意見
- ヘ. 平成 16 年 10 月、IASB 「IAS39:金融商品の認識と測定」、「IFRS4 保険契約」の一部修正、「金融保証契約と信用保険」に対する IAA 意見
- ト. 平成 16 年 12 月、IAIS 「保険監督の新しい枠組み (案)」に対する IAA 意見
- チ. 平成 16 年 12 月、IAIS 「保険者及び再保険者の投資パフォーマンスとリスクに関する開示基準 (案)」に対する IAA 意見
- リ. 平成 16 年 12 月、IAIS 「IAIS 業務におけるオブザーバーの参加範囲に関する方針書 (案)」に対する IAA 意見
- ヌ. 平成 17 年 1 月、「アクチュアリー専門職に関するモリスレビュー：中間評価報告書」に対する IAA 意見
- ル. 平成 17 年 2 月、国際会計基準委員会財団 (IASCF) 「定款の見直し 改定案」に対する IAA 意見

## (21) 国際交流関係

来日した各国アクチュアリーと交流を図ったほか、次のとおり会議等に代表を派遣した(前述の会議等についても再掲)。

- 平成 16 年 4 月 27 日～29 日 第 2 回 IAA Health Section 会議 (於：ドイツ ドレスデン)  
今中 延行 君
- 平成 16 年 6 月 2 日～5 日 IAA 会議 (於：スウェーデン スtockホルム)  
日笠 克巳 君、藤井 康秀 君、吉田 英幸 君、阿比野 裕 君、  
河野 年洋 君、田口 茂 君、田中 浩一 君、吉村 雅明 君
- 平成 16 年 6 月 6 日～9 日 第 35 回 ASTIN 会議 (於：ノルウェー ベルゲン)  
美添 泰人 氏 (青山学院大学)
- 平成 16 年 9 月 27 日～29 日 IAA と中国アクチュアリー会とのジョイント・  
アクチュアリアル・コンファレンス (於：中国 西安)  
多島 和夫 君、村田 富生 君
- 平成 16 年 10 月 23 日～27 日 SOA 年次大会 (於：アメリカ ニューヨーク)  
石垣 英宣 君、大塚 忠義 君
- 平成 16 年 10 月 30 日～11 月 3 日 IACA 会議 (於：オーストラリア シドニー)  
吉田 英幸 君
- 平成 16 年 11 月 7 日～10 日 第 14 回 AFIR 会議 (於：アメリカ ボストン)  
櫛引 亮 君
- 平成 16 年 11 月 10 日～13 日 IAA 会議 (於：アメリカ ワシントン D.C.)  
日笠 克巳 君、阿比野 裕 君、河野 年洋 君、  
吉村 雅明 君、田口 茂 君、重原 正明 君、村田 富生 君
- 平成 16 年 11 月 14 日～17 日 CAS 年次大会 (於：カナダ モントリオール)  
御子神 弘久 君
- 平成 16 年 11 月 26 日 第 13 回 EAAC 準備会議 (於：インドネシア バリ)  
長舟 貴洋 君、村田 富生 君

## [評議員会]

### (22) 平成 16 年度評議員会の開催

平成 17 年 3 月 7 日、経団連会館にて開催した。平成 16 年度の事業概況および平成 17 年度の事業計画について審議した。

## [大学、関係官庁・団体]

(23) 京都大学より保険数学の講師派遣の依頼があり、辻 芳彦 君 (大同生命)、南 嘉博 君 (日本生命)、湯浅 味代士 君 (住友生命) を派遣した。

(24) 大阪大学より関西支部へ保険数学の講師派遣の依頼があり、鈴木 浩吾 君 (大同生命)、湯浅 味代士 君 (住友生命)、吉田 英樹 君 (日本生命) を派遣した。

(25) 日本大学の依頼に基づく当会の推薦により、本多 正憲 君（野村総合研究所）が損害保険数理の講義を、松山 直樹 君（明治安田生命）が生保数理実務論 I・II の講義を行った。

(26) 平成 16 年 9 月 4 日、5 日、花巻市 富士大学において開催された統計関連学会連合大会の 9 月 4 日の企画セッション「統計学と保険」へ、当会派遣により、河野 年洋 君（ニッセイ同和損害）、栗山 晃 君（朝日生命）、松山 直樹 君（明治安田生命）が参加した。

(27) 金融庁から「諸外国における保険会社の会計制度等」に関する調査の業務委託を受け、事務局委員会の下に特別部会を設置し、報告書の作成を行った。

#### 〔表彰関係〕

(28) 平成 15 年度資格試験成績優秀者の表彰

イ. 理事長特別賞・理事長賞の授与

平成 16 年 5 月 31 日に吉原 大輔 君（三井住友海上）に理事長特別賞を、小西 拓也 君（三菱信託）、須藤 健次郎 君（三井アセット信託）、田邊 輔仁 君（損保料率機構）の 3 名に理事長賞を授与した。

ロ. 科目別成績優秀賞の授与

同日、次の 4 名を表彰した。

佐藤 晋 君	（三井住友海上）	数学
古家 賢一郎 君	（明治安田生命）	生保数理
符波 清治 君	（個人）	生保数理
宮沢 裕之 君	（東京海上日動）	生保数理

(29) 優秀論文の表彰

平成 16 年 10 月 27 日、年次大会において次のとおり表彰した。

イ. 優秀論文の表彰 1 編

「長期就業不能保険（LTD）のリスク管理に関する一考察」

鈴木 敦之 君（AIG スター生命）

ロ. IT 関連優秀論文の表彰 2 編

「保険業界における XML・Web サービスの活用」

IT 研究会第 1 グループ

「基幹システム資産の戦略的活用について」

IT 研究会第 2 グループ

#### 〔広報・出版活動〕

(30) 広報活動

イ. 広報誌「アクチュアリー」の配布

ロ. 「アクチュアリーセミナー」の実施

主に学生を対象としたセミナーを、平成 16 年 11 月 20 日に東京（日本アクチュアリー会大会議室）で、12 月 4 日には大阪（住友生命 釣鐘倶楽部）で開催した。各々の参加者は 64 名および 25 名であった。

### (31) 会報等の刊行

次のとおり会報をはじめ各種の刊行物を発行した。

- イ. 会 報 第 57 号
- ロ. 会報別冊 第 215 号 平成 15 年度資格試験問題集
- 第 216 号 保険者ソルベンシー評価のための国際的枠組み
- 第 217 号 ◆英国・EU のソルベンシー規制改定の動向に関する調査報告書  
◆英国のアポイントドアクチュアリー制度見直しの動向に関する調査報告書
- 第 218 号 負債の公正価値評価
- 第 219 号 第 44 回 IT 研究大会報告
- 第 220 号 2004 年度継続検討の状況について  
(変額年金保険等の最低保証リスクに係る特別部会・変額年金保険等の最低保証リスクに係る研究 WG)
- ハ. アクチュアリージャーナル 第 52 号～第 55 号
- ニ. アクチュアリージャーナル 特別号  
アクチュアリージャーナル特別号として、日本保険・年金リスク学会  
(JARIP) との共同編集による査読付論文誌を新たに発行した。
- ホ. 関西支部研究会記録 第 40 号
- ヘ. 投資型商品における最低保証給付の数理
- ト. 統計データの数理モデルへの適用ー演習編ー

### 〔図書関係〕

#### (32) 図書の充実

引き続き、図書室の図書の充実を図った。平成 16 年度中の図書の増加状況は次のとおり。

洋書 40 冊                  和書 52 冊                  計 92 冊

### 〔関西支部〕

#### (33) 支部総会

平成 16 年 5 月 21 日、りそな銀行本店にて支部総会を開催し、

- 第 1 号 平成 15 年度事業概況に関する件
- 第 2 号 平成 15 年度決算および平成 16 年度予算（案）承認の件
- 第 3 号 平成 16 年度事業計画（案）承認の件

を諮り、原案どおり承認された。

#### (34) 関西支部例会の開催

平成 16 年 9 月 24 日（於：大阪国際ビルディング）

「日本アクチュアリー会の最近の動向」                  寺阪 元之 君（スセイ損害保険）

平成 17 年 3 月 22 日（於：りそな銀行本店）

「保険料率と資本の決定：保険数理とファイナンス理論の融合」

森平 爽一郎 氏（慶應義塾大学）

(35) 関西支部研究会活動

次の5分科会において研究調査活動を行った。

保険計理分科会	委員長	辻 芳彦 君 (大同生命)
年金分科会	〃	浅野 勝美 君 (りそな信託)
海外年金研究会	〃	横山 武彦 君 (りそな信託)
システム分科会	〃	奥田 俊博 君 (ネット情報テクノロジー)
アクチュアリーセミナー	〃	山本 越郎 君 (住友生命)

(36) 関西支部アクチュアリー講座の実施

関西支部においてアクチュアリー講座を実施した。受講者数および講師は次のとおりであった。

		受講者数	講 師
前期 (9～10月)	生保数理	6名	高木 寛道 君 (りそな信託)
後期 (10～11月)	生保数理	6名	高木 寛道 君 (りそな信託)